



平成 28 年 12 月 1 日

杉並区長 殿

杉並区NPO等活動推進協議会
会長 山本 啓

平成 29 年度杉並区協働提案実施予定事業の評価結果について

平成 29 年度杉並区協働提案実施予定事業について、下記のとおり評価を行ったので報告します。

記

1 協働提案評価員

氏 名	区分	備 考
ふくしま やすひと 福島 康仁	杉並区NPO等活動推進協議会副会長、同協議会協働推進部会部会長	日本大学法学部 公共政策学科教授
ただ くにあき 多田 邦晃	杉並区NPO等活動推進協議会 協働推進部会部会員	区民公募
おおた ともこ 太田 智子		NPO等活動関係者（公募）
みはら きくえ 三原 紀久恵		団体推薦（東京税理士会 荻窪支部）
かねしろ あきとし 金城 景敏		団体推薦（公益社団法人 東京青年会議所）

2 協働提案一覧

(1) 平成 28 年度から実施している継続事業

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 杉並中小企業診断士会	空き店舗のデータベース作成と 商店街・創業者のマッチング事業	区民生活部 産業振興センター 商業係
②	特定非営利活動法人 ピルコン	すぎなみレッドリボンプロジェ クト	保健福祉部 保健予防課 感染症係

(2) 平成 27 年度から実施している継続事業

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 チューニング・フォー ー・ザ・フューチャー	すぎなみ戦略的アートプロジェ クト	区民生活部 文化・交流課 文化振興担当
②	株式会社 トロア	杉並区内の障害者施設ネットワ ーク基盤の強化	保健福祉部 障害者生活支援課 就労支援係
③	特定非営利活動法人 杉並冒険あそびの会	子どもプレーパーク事業	保健福祉部 児童青少年課 児童館運営係

3 協働提案の評価対象及び評価方法

(1) 評価対象

平成 28 年度から実施している 2 事業	平成 27 年度から実施している 3 事業
<p>●提案関係書類の書類審査</p> <p>①協働提案書【継続事業】</p> <p>②協働提案経費概算書</p> <p>③事業概要図</p> <p>※以下「すぎなみレッドリボンプロジェクト」のみ (提案団体と協力団体が入れ替わったため)</p> <p>④法人等の登記簿謄本⑤定款</p> <p>⑥事業報告書等[平成 27 年度分]</p> <p>⑦納税証明書</p>	<p>●提案関係書類の書類審査</p> <p>①協働提案書【継続事業】</p> <p>②協働提案経費概算書</p> <p>③事業概要図</p>
●提案団体・担当課による公開プレゼンテーション、質疑	
●協働推進部会における各部会員の意見交換	

(2) 評価方法

●「協働提案評価表」(継続提案用)を使用して各部会員が評価項目ごとに ABCDE 評価する。

A=特に期待できる (5点)、B=期待できる (4点)、C=標準的である (3点)、

D=あまり期待できない (2点)、E=期待できない (1点)

●各部会員評価表を集計し、以下のとおりの採点を評価の参考とする。

・評価項目及び全体の平均点を出す。平均点を出すに当たっては、5人の平均点を算出

●評価については、平均点に応じて以下の11段階で行うこととする。

A	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E
特に期待できる	←	期待できる	→	←	標準的である	→	←	あまり期待できない	→	期待できない
5~ 4.45	4.44 ~4.15	4.14 ~3.75	3.74 ~3.45	3.44 ~3.15	3.14 ~2.75	2.74 ~2.45	2.44 ~2.15	2.14 ~1.75	1.74 ~1.45	1.44 ~1

4 評価内容

(1) 平成 28 年度から実施している継続事業

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 杉並中小企業診断士会	空き店舗のデータベース作成と 商店街・創業者のマッチング事業	区民生活部 産業振興センター 商業係

○ 評価結果

「C1」

○ 評価コメント

提案書類審査および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「空き店舗のデータベース作成と商店街・創業者のマッチング事業」にかかる「特定非営利活動法人杉並中小企業診断士会（以下「診断士会」という。）」および「杉並区区民生活部産業振興センター商業係」の協働提案実施予定事業について、「標準的である」と評価した。以下において、主な評価項目の評価結果と若干の意見を付記した。

設定された目標については、目標設定を明確にしている点は評価できるが、初年度の実績からすれば目標が高く、その達成可能性を不安視する意見がある。また、10 商店街のミナクル商店街への加入については評価できるが、ホームページへの掲載店舗が少なすぎる点からも目標値の設定の根拠について疑問が呈されている。

協働の効果については、創業者側への認知促進において、団体のこれまでの商店街との関わりから協働の効果は高いといえる。

地域資源の活用については、和泉明店街、妙法寺門前通り商店会のように、地域に根差した特色ある商店街への方向性のリサーチにより、空き店舗支援の可能性があると意見が出されている。

区民満足度については、現段階では区民満足度は低く、一層の努力を期待したい。空き店舗が減り、商店街を活性化できるようなマッチングができれば地域住民や商店街の方々の満足度の上昇が期待できる。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、ミナクル商店街 HP を作成したのはある程度評価できるが、そもそも商店街の情報量が少なく有効に活用できているとは言い難い。創業支援のエキスパート集団であり、提案団体の有する経験知、専門知が十分に活用されていない状況である。各商店街にアドバイザーを派遣しているが、具体的にどのようなサポートをしているのか不明な部分があり、各ミナクル商店街のアドバイザー間の連携がどれだけ図れ、商店街の支援で得られた知見や反省を

横断的に展開できる仕組みの構築を不安視する意見が出された。今後、空き店舗情報の具体的情報がなかなか収集できないという状況を踏まえ、不動産業者、所有者との連携を強化し実施体制を整えてほしい。次年度には多くの出店につながるマッチングができることを期待したい。

計画性については、今年度の事業は予想を下回る状況であり、事業年度の事業計画を可能な限り実行してほしい。商店街や空き店舗の登録を増やすことは当然であるが、マッチングの成果を出していくことが重要である点を再認識してほしいという意見が出されている。

経済性については、全体としては明確である。

創造性・新規性については、商店街の特色、魅力があることを前提とする空き店舗への取り組みであり、商店街、入居者の相乗効果が期待できる。空き店舗情報が「掲載許可」となるまでのノウハウを活用し、より早く、より掲載許可となる比率を高められる工夫をしてほしい。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

マッチングの精度を高めるために、創業希望者層の確保や、潜在層にも更新情報が伝わる工夫をしてみしてほしい。また、商店街の方々に信頼され商店街の活性化が実施できている例もあるのでさらなる取り組みを期待する。例えば、ミナクル商店街に登録している10商店街のうち半分を占める西荻窪は大きな店舗はないものの魅力的かつ人気の店が多いので、当該地でのマッチングが成立することを期待したい。

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
②	特定非営利活動法人 ピルコン	すぎなみレッドリボンプロジェクト	保健福祉部 保健予防課 感染症係

○ 評価結果

「B3」

○ 評価コメント

提案書類審査および公開プレゼンテーションに基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「すぎなみレッドリボンプロジェクト」にかかる「特定非営利活動法人ピルコン」および「杉並区保健福祉部保健予防課感染症係」の協働提案実施予定事業について、「期待できる」と評価した。以下において、主な評価項目の評価結果と若干の意見を付記した。

目標設定については、1年目の「保健教育に関わる方々を中心に啓発・周知」がまだ十分でないように感じる。また1年では困難な点は理解できるので、2年目は若年世代への啓発に軸足をおきつつ、継続して保健教育に関わる方々への働きかけをしていく必要がある。もっと多くのイベント等への出展で機会を増やし、より普及することを期待する。

協働の効果については、無関心層へのリーチには、積極的に出向かなくても情報に偶然触れてしまうような機会が必要である。成人式会場での啓発活動などに見られるように、区との協働の強みが発揮されている。

地域資源の活用については、杉並区で教育関係者への啓発プログラムを実施し、若年世代も育成して啓発に活用している。

区民満足度については、ノウハウを持っている提案団体が感染症予防に対する知識・対策等を啓発し、区民満足度が高まることが予想される。「レッドリボン」というキーワードの認知度の向上が区民の啓発を促し満足度の向上につながると思われる。

計画性については、事業計画・スケジュール等実現可能なものとなっている。

経済性については、大学、区内イベントでの人件費の内容が不明確な部分もあるとの指摘もあった。また、今後の課題としては事業経費について、継続するためには協賛企業を巻き込むことが望ましい。

創造性・新規性については、若年世代をピアリーダーとして育成しているのも、さらに、ピアリーダーがリーダーシップを発揮し、自発性を高めるための具体的な仕掛けを期待したい。

継続性については、4年目以降までのビジョンが明確であり、事業を発展させていくためにはピアリーダーの育成が課題である。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

当該課題の啓発自体は場所を問わず必要なものであり、高校・大学生は活動範囲が広く、区内に限定した活動は困難であるが、より「区内」の受益者が増えて欲しい。告知手段やピアリーダー募集のメッセージにより、もっとチューニングできるのでは、との意見も出された。

恋の厄除けガイド、おみくじなど、啓発に対するアイデアを評価する意見が出された。今後のより一層の啓発に期待する。

(2) 平成 27 年度から実施している継続事業

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
①	特定非営利活動法人 チューニング・フォー・ ザ・フューチャー	すぎなみ戦略的アートプロジ ェクト	区民生活部 文化・交流課 文化振興担当

○ 評価結果

「B3」

○ 評価コメント

提案書類審査に基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「すぎなみ戦略的アートプロジェクト」にかかる「特定非営利活動法人チューニング・フォー・ザ・フューチャー」および「杉並区区民生活部文化・交流課文化振興担当」の協働提案実施予定事業について、「期待できる」と評価した。以下において、主な評価項目の評価結果と若干の意見を付記した。

課題・ニーズ把握については、計画は、実績と反省を踏まえたものになっている。すなわち、同事業のデータベース化等が進み、登録数が増加し、次年度アート名鑑の作成等も考えるなど着実な計画がなされている。

目標設定については、具体的に、まちなかギャラリー精査、サポーター養成講座、アート名鑑の作成等を設定している。ただし、長期目標としてのオリンピック開催時期の設定の意図がわかりにくいとの意見も出された。

協働の効果については、協働で提案団体は文化的なプログラムができ、区も美術館がない状況下で区民が文化芸術を楽しむ機会を提供し効果を上げている。

地域資源の活用については、サポーターの育成に力を入れ地域人材を活用しようとすることは評価できる。また、関係者への説明会を重ねることによりギャラリー、アーティスト、サポーターという地域資源の有効な活用となった。次年度もさらなる活用を計画している。

区民満足度については、すぎなみアートさんぽ等の取り組みにより満足度の向上に十分貢献している。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、これまでの経験、実績を活かし、目標通りに実現できていることは評価に値する。

計画性については、サポーターの育成プログラム、アート名鑑の作成について期待している。

創造性・新規性については、SNSの活用、まちなかギャラリー、アートさんぽの拡大、隣接区アートイベントとの連携等、積極的な内容となっている。

継続性については、アートさんぽ等を通して、文化面のレガシーを2020年以降継承していけるシンボルイベントまで考えている点は評価できる。東京オリンピックまでに夏の恒例イベントにするという目標をステークホルダー間で共有できると良いのではないかとの意見が出された。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

アートさんぽのスタンプラリーの景品の設定方法などは、サポーターなどの「アート好き」の方々の意見も参考にしているのか疑問である。アートは好みの分かれるものであり、福袋形式を改め、選択制にし、当たる人数を増やすほうが応募したいという人が増えるのではないかとの意見が出された。加えてイベントマップ企画について評価はするものの、もう一つ工夫が期待される。

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
②	株式会社 トロア	杉並区内の障害者施設ネット ワーク基盤の強化	保健福祉部 障害者生活支援課 就労支援係

○ 評価結果

「B3」

○ 評価コメント

提案書類審査に基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「杉並区内の障害者施設ネットワーク基盤の強化」にかかる「株式会社トロア」および「杉並区保健福祉部障害者生活支援課就労支援係」の協働提案実施予定事業について、「期待できる」と評価した。以下において、主な評価項目の評価結果と若干の意見を付記した。

課題・ニーズ把握については、現状分析調査等から課題が顕在化し、セミナー等を通じて職員の改善意識が増大した。また、今年度までの実績を踏まえて、一步踏み込んだ計画となっているが、今後は課題に加え、支援終了後の継続性ある体制づくりについて検討してほしい。

目標設定については、解決したい課題は明確だが、目標設定の点でやや不明確という意見と具体的な目標設定ができているという意見に評価が分かれた。すなわち、目標値の設定について異論がでる要素が含まれているため、この点について留意してほしい。

協働の効果については、効果が得られていると評価する。各障害者施設は、協働しコンサルタントからアドバイスを得られたことで、運営方法等が向上し、さらには職員のやる気を引き出すことができている。

しかし、協働の当事者間で、この事業の成果のイメージの共有がなされているか疑問であるとの意見も出された。

地域資源の活用については、各障害者施設の特徴を生かし、ポスター掲示や商品カタログの配布先の拡大や支援者を増やすなど、地域資源を活用できているという意見がある一方で、既存のネットワークとのつながりはできているが、新たな地域資源の活用はできていないという意見もあった。今後、さらにホームページ、地域との連携等を図ることに期待したい。

区民満足度については、施設での商品内容等を具体的に公表し当該事業への区民の理解、満足度が進んでいると思われる。ただ、この事業に関しては、区民の満足度に加え施設の職員の満足度が向上したかがポイントになるとの意見も出された。

団体の事業実現力および団体の事業組織力については、コンサルタントの専門知・経験知が十分生かされ、経営改善が進み、施設運営事業が改善されたといえる。協働事業

全体においても、その中の各事業においても、PDCAサイクルを着実に実施することを徹底し目標が達成できていることは、評価に値する。

ただし、他団体との協力という点での組織力がどこまで発揮されたかが不透明であるとの意見もあった。

計画性については、目標どおりに実現できていることは評価に値するが、新すぎなみ仕事ネットへの移行の意義が明確でない。

経済性については、共同化プロジェクトに団体の負担分がなく、全費用が区のみとなっている理由が不明確である。

創造性・新規性については、障害者のつくるフェアで、障害者自身が新たな企画に参加し、次年度も自主プロジェクトの企画をしている。また、各施設調査分析も各施設の個別の提案・支援内容を含むようになるなどステップアップしたことを感じる。

継続性・波及性については、3年目にはいり、「すぎなみ仕事ネット」メンバーや施設職員自身に事業を推進する力をもたらせるかが今後問われてくると思われる。また、この団体が事業に関わらなくなったときの体制に懸念が生じる。ノウハウなどが参加事業者に蓄積されることや、杉並区をはじめとする官公庁への販路拡大、さらに民間企業へも販路拡大を期待したい。ただし、経営としての採算重視や事業の拡大が、障害者の過度の負担にならないように商品開発をしてほしい。

最後に、評価項目以外の意見を注記したい。

一般に向けたネットやSNSでの発信による新たな展開を期待したい。また、新すぎなみ仕事ネットが十全に機能するかが今後の最重要課題なので、実現に向けて工夫していただきたい。

No.	提案団体名	協働提案名	担当課
③	特定非営利活動法人 杉並冒険あそびの会	子どもプレーパーク事業	保健福祉部 児童青少年課 児童館運営係

○ 評価結果

「B3」

○ 評価コメント

提案書類審査に基づき、杉並区NPO等活動推進協議会は、協働テーマ「子どもプレーパーク事業」にかかる「特定非営利活動法人杉並冒険あそびの会」および「杉並区保健福祉部児童青少年課児童館運営係」の協働提案実施予定事業について、「期待できる」と評価した。以下において、主な評価項目の評価結果と若干の意見を付記した。

課題・ニーズ把握については、外遊びは子どもを持つ家庭に高いニーズがある。また、これまでの実施を踏まえ、次年度からの事業の拡大に備えて外遊びを支援する大人を増やすことの課題も把握されている。

協働の効果については、協働団体の知見、リソースと行政の提供できる施設や行政のもつ信頼性がマッチすることで、継続した相乗効果を生むと期待できる。区との協働により子どもたちに外遊びを体験させることができる一方、区もノウハウの蓄積ができる。

地域資源の活用については、公園や出前プレーパークでの児童館など地域資源を活用していると判断する。今後、事業の開催場所を増やしたり、地域人材を有効に活用していくことが課題と考える。また、大学との連携による人材確保に期待したい。

区民満足度は、利用者数が増加し上昇傾向にある。井草森公園での平日開催が加わり満足度がさらに向上すると思われる。

団体の事業実現力及び団体の事業組織力については、長年にわたる活動で、外遊びの専門知、経験知、実績があり、その強みを発揮している。また、目標どおりに事業を実施していることは評価できる。事業実施に当たっての人材配置が難しく、次世代プレーリーダーの育成にこだわらず年代を限定せずに人材を育成したり、支援者の人材確保をしたりすることが必要との意見が出された。事業の拡大に向けてNPOの運営体制の強化、自主財源の確保、指導者の養成が今後の課題である。また、他団体との協力は評価できる。

計画性については、出前プレーパークの実施回数を増やせると良いとの意見が出された。プレーリーダー養成講座は、今年度は受講が少なく、スケジュールを工夫するなど改善を期待したい。また、実際に現場に出られるプレーリーダーを養成できるかが重要である。

創造性・新規性については、特に新しい発想ではないが、多様な外遊びにより子どもたちの実体験を増やせることを評価する。

継続性・波及性については、今後も発展・継続する可能性がある。プレーリーダーの養成などができれば、区内各地域への波及効果も期待できるが、現在の手法の延長線の方法では頭打ち感があり、他の担い手を育てたり、自立を促進するスケールアウトのための新しい手法が必要との意見が出された。

最後に評価項目以外の意見を注記したい。

ニーズが高いだけに今後の団体の基盤強化ができるかがポイントである。また、参加する子どもの親や支援する人や事業に共感する方々に寄付の呼びかけなどをしてよいのではないか、との意見も出されている。

5 評価項目別評価

別紙のとおり